

福岡県立英彦山青年の家 個別施設計画について

【施設の概要】

対象施設	福岡県立英彦山青年の家		
所管	教育庁教育振興部社会教育課		
所在地	福岡県田川郡添田町大字英彦山32-18		
敷地面積(㎡)	105,710.00	建築面積(㎡)	3,459.59
主構造	RC造	延床面積(㎡)	7,647.23
主要建築物	管理棟・宿泊棟、多目的ホール、体育館、職員宿舎		

英彦山青年の家は昭和46年に開設された宿泊型社会教育施設です。

日本三大修験道の山の一つである英彦山にあり、大自然が見せる四季折々のすばらしい景観と、たくさんの動植物が生息する恵まれた自然環境の中で、野外活動・文化活動・スポーツ・レクリエーションなどを快適に体験できます。

【個別施設計画の策定単位】

英彦山青年の家の個別施設計画については、当該施設を構成する建築物を①管理棟・宿泊棟、②体育館、③多目的ホール、④職員宿舎の4つに分け、それぞれについて今後の改修等に関する計画を策定しました。

福岡県立英彦山青年の家
(管理棟・宿泊棟)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	70
施設所管課	社会教育課

令和2年2月

❀福岡県❀

福岡県立英彦山青年の家（管理棟・宿泊棟）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県立英彦山青年の家		
所 管	教育庁教育振興部社会教育課		
整 理 番 号	70	竣工年度	昭和 46 年度
所 在 地	福岡県田川郡添田町大字英彦山 3 2 - 1 8		
敷 地 面 積 (m ²)	105,710.00	建築面積 (m ²)	3,459.59
主 構 造	R C 造	延床面積 (m ²)	7,647.23
主 要 建 築 物	管理棟・宿泊棟、多目的ホール、体育館、職員宿舎		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	管理棟・宿泊棟			
棟 番 ・ 枝 番	1020	—	1・2	竣工年度 昭和 46 年度
建 築 面 積 (m ²)	1,594.17		延床面積 (m ²)	4,934.91
構 造 ・ 階 数	R C 造 3 階			
各 階 面 積 及 び 用 途				
階別	階床面積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)		
3F	1,594.17	講堂、視聴覚室		
2F	1,594.17	研修室、宿泊室等		
1F	1,594.17	事務室、機械室、会議室、浴場、食堂等		

英彦山青年の家は昭和 46 年度に開設され、管理棟・宿泊棟は昭和 46 年度に竣工しました。

日本三大修験道の山の一つである英彦山にあり、大自然が見せる四季折々のすばらしい景観と、たくさんの動植物が生息する恵まれた自然環境の中で、野外活動・文化活動・スポーツ・レクリエーションなどを快適に体験できる宿泊型社会教育施設です。

(3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築48年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新（建替え）は計画していません。

他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造りによる一般的な建物であり、宿泊棟の耐震補強工事を平成23年度、管理棟の屋上防水工事を平成27年度、外装改修工事を平成20年度、空調設備及び衛生設備の更新を平成23年度、消防設備の更新を平成12年度に行っています。

宿泊棟の屋上防水に老朽化が見られます。また、一部の機械設備については、新築時より改修を行っておらず、改修年数を大幅に超えている状態です。

特に、建築物としての機能を維持するため、設備機器類、宿泊棟の屋根防水の改修を優先して行っていきます。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

耐震補強については改修を行っているため計画期間内における改修は不要です。

内装や施設設備の不具合等が発見された場合、部分的に事後保全による修繕を行っているものが多く、改修が必要な箇所が多い状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	英彦山青年の家		建物名称	管理棟・宿泊棟				
所在地	田川郡添田町大字英彦山32-18		棟番・枝番	1020	- 1・2	築年数	48年	
建築年度	昭和46年度	建築面積	1,594.17 m ²		現存率	81.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 3	延面積	4,934.91 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC H23_耐震工事	48	80.0		32.00	
	小計							32.00
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	シート防水 H27_屋上防水	3	100.0		20.00	
	外壁	20	塗装、コンクリート H20_外装改修	10	70.0		14.00	
	小計							34.00
電気設備	受変電設備	10		47	60.0		6.00	
	小計							6.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10	H23_衛生設備	48	90.0		9.00	
	小計							9.00
合計							81.00	

この結果、英彦山青年の家の管理棟・宿泊棟の現存率は、「81.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	RC	80.0	耐震診断による Is 値 ¹	Is が 0.7～1.0 未満
屋根	シート防水	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	管理棟 経年 10 年未満 宿泊棟 経年 20 年以上
外壁	塗装、コンクリート	70.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・広範囲に少しずつの劣化がある ・多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある ・部分修繕でも対応可能
			漏水の発生・痕跡の有無	・部分的にひび割れや部材の劣化がある ・少数の部材に少しの劣化がある
内壁	石こうボード EP、モルタル EP	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
天井	石こうボード EP	80.0		
床	タイル貼り、ビニールシート張り、モルタル塗り	80.0		
建具	無し	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

¹ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調調和設備 換気設備 排煙設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
消火設備	消火設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1971	48	旧	0.79	○	×	×	65年

※平成 21 年度耐震診断結果より

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いいため、英彦山青年の家（管理棟・宿泊棟）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 17 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築48年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は17年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間の改修費用は、約4千万円となっています。

(2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿った上で費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

まずは、機械設備、屋上防水の改修を行います。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

区分	項目	(百万円)			計
		実施時期			
		令和元～2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	25	0	25
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	7	3	0	10
その他	門扉等	0	0	1	1
	計	7	28	1	36

※上記は実際の前算や事業費等とは異なります。

福岡県立英彦山青年の家
(体育館)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	70
施設所管課	社会教育課

令和2年2月

❀福岡県❀

福岡県立英彦山青年の家（体育館）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県立英彦山青年の家		
所 管	教育庁教育振興部社会教育課		
整 理 番 号	70	竣工年度	昭和 46 年度
所 在 地	福岡県田川郡添田町大字英彦山 3 2 - 1 8		
敷 地 面 積 (m ²)	105,710.00	建築面積 (m ²)	3,459.59
主 構 造	R C 造	延床面積 (m ²)	7,647.23
主 要 建 築 物	管理棟・宿泊棟、多目的ホール、体育館、職員宿舎		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	体育館				
棟 番 ・ 枝 番	1020	—	3	竣工年度	昭和 46 年度
建 築 面 積 (m ²)	909.50		延床面積 (m ²)	1,091.48	
構 造 ・ 階 数	R C 造 2 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
2F	181.98	卓球場			
1F	909.50	体育館、更衣室等			

英彦山青年の家は昭和 46 年度に開設され、体育館は昭和 46 年度に竣工しました。

日本三大修験道の山の一つである英彦山にあり、大自然が見せる四季折々のすばらしい景観と、たくさんの動植物が生息する恵まれた自然環境の中で、野外活動・文化活動・スポーツ・レクリエーションなどを快適に体験できる宿泊型社会教育施設です。

(3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築48年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新（建替え）は計画していません。

他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造りによる一般的な建物であり、耐震補強工事を平成23年度、屋上防水工事を平成2年度、空調設備更新を平成23年度、衛生設備の更新を平成23年度、消防設備の更新を平成12年度に行っています。また、平成30年度から外壁改修を行っているところです。

特に、直接的被害につながる恐れのある外壁の改修を優先し、計画的に対策を行っていきます。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

耐震補強については改修を行っているため計画期間内における改修は不要です。内外装ともに不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	英彦山青年の家		建物名称	体育館				
所在地	田川郡添田町大字英彦山32-18		棟番・枝番	1020	- 3	築年数	48年	
建築年度	昭和46年度	建築面積	909.50 m ²		現存率	80.3	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 2	延面積	1,091.48 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC H23耐震工事	48	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	鋼板屋根 H2屋根張替え	28	66.7		13.34	
	外壁	20	コンクリート	47	60.0		12.00	
	小計							25.34
電気設備	受変電設備	10		47	60.0		6.00	
	小計							6.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10	H23衛生設備	7	90.0		9.00	
	小計							9.00
合計							80.34	

この結果、英彦山青年の家の体育館の現存率は、「80.3」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	RC	100.0	耐震診断による Is 値 ²	Is 値が 1.0 以上
屋根	鋼板屋根	66.7	防水層からの漏水 またはその痕跡	<ul style="list-style-type: none"> 部分的にひび割れや部材の劣化がある 少数の部材に少しの劣化がある
			防水層の劣化	<ul style="list-style-type: none"> 部分的にひび割れや部材の劣化がある 少数の部材に少しの劣化がある
			経年（新設もしくは改修後）	経年 20 年以上
外壁	コンクリート	60.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	<ul style="list-style-type: none"> 広範囲に少しずつの劣化がある 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある 部分修繕でも対応可能
			漏水の発生・痕跡の有無	<ul style="list-style-type: none"> 広範囲に少しずつの劣化がある 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある 部分修繕でも対応可能
内壁	石こうボード EP、モルタル EP	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
天井	石こうボード EP	80.0		
床	タイル貼り、板張り	80.0		
建具	アルミ、木製	70.0	劣化	仕上げ材等の劣化が多く認められるが、部分修繕で対応可能
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上

² Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年20年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調調和設備 換気設備 排煙設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	—	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1971	48	旧	1.03	○	○	○	65年

※平成 21 年度耐震診断結果より

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いいため、英彦山青年の家（体育館）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 17 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築48年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は17年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間の改修費用は、約4千万円となっています。

(2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿った上で費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

まずは、外壁の改修を行います。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

区分	項目	(百万円)			計
		実施時期			
		令和元～2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	38	0	0	38
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	38	0	0	38

※上記は実際の前算や事業費とは異なります。

福岡県立英彦山青年の家
(多目的ホール)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	70
施設所管課	社会教育課

令和2年2月

❀福岡県❀

福岡県立英彦山青年の家（多目的ホール）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県立英彦山青年の家		
所 管	教育庁教育振興部社会教育課		
整 理 番 号	70	竣工年度	昭和46年度
所 在 地	福岡県田川郡添田町大字英彦山32-18		
敷 地 面 積 (m ²)	105,710.00	建築面積(m ²)	3,459.59
主 構 造	RC	延床面積(m ²)	7,647.23
主 要 建 築 物	管理棟・宿泊棟、多目的ホール、体育館、職員宿舎		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	多目的ホール				
棟 番 ・ 枝 番	1020	-	4	竣工年度	昭和60年度
建 築 面 積 (m ²)	396.69		延床面積(m ²)	956.81	
構 造 ・ 階 数	RC造 3階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
3F	396.69	研修室			
2F	396.69	宿泊室			
1F	395.69	宿泊室			

英彦山青年の家は昭和46年度に開設され、多目的ホールは昭和60年度に竣工しました。

日本三大修験道の山の一つである英彦山にあり、大自然が見せる四季折々のすばらしい景観と、たくさんの動植物が生息する恵まれた自然環境の中で、野外活動・文化活動・スポーツ・レクリエーションなどを快適に体験できる宿泊型社会教育施設です。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築34年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新（建替え）は計画していません。

他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造りによる一般的な建物であり、屋上防水工事を平成16年度、空調設備及び衛生設備の更新を平成23年度に行っています。

内外装に大きな劣化状況は見られませんが、経年相応の老朽化が進んだ状態にあります。一部の設備機器類については、事後保全型管理による補修を行っている状態です。

直接的被害につながる恐れのある天井の改修を優先し、計画的に対策を行っていきます。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

空調設備、給排水設備については改修を行っているため計画期間内における改修は不要です。内外装ともに不具合が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	英彦山青年の家		建物名称	多目的ホール				
所在地	田川郡添田町大字英彦山32-18		棟番・枝番	1020	-	4	築年数	34年
建築年度	昭和60年度	建築面積	396.69 m ²		現存率	83.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 3	延面積	956.81 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC	34	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	その他 H16_屋根防水	28	60.0		12.00	
	外壁	20	コンクリート、その他	33	80.0		16.00	
	小計							28.00
電気設備	受変電設備	10		33	60.0		6.00	
	小計							6.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10	H23_衛生設備	7	90.0		9.00	
	小計							9.00
合計							83.00	

この結果、英彦山青年の家の多目的ホールの現存率は、「83.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	RC	100.0	耐震診断による Is 値 ³	新耐震基準
屋根	その他	60.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	—
			防水層の劣化	—
			経年（新設もしくは改修後）	経年 15 年以上
外壁	コンクリート、 その他	80.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			漏水の発生・痕跡の有 無	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
内壁	石こうボードEP、 モルタルEP	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生している が機能上問題なし
天井	石こうボードEP	80.0		
床	ビニール床タイル 張り、ビニール シート張り、 板張り	80.0		
建具	アルミ	90.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生している が機能上問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上

³ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調調和設備 換気設備 排煙設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
消火設備	消火設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 30 年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1985	34	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いいため、英彦山青年の家（多目的ホール）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 31 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築34年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は31年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間の改修費用は、約5百万円となっています。

(2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿った上で費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

まずは、天井の改修を行います。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

		(百万円)			計
区分	項目	実施時期			
		令和元～2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	5	0	0	5
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
計		5	0	0	5

※上記は実際の前算や事業費とは異なります。

福岡県立英彦山青年の家
(職員宿舎)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	70
施設所管課	社会教育課

令和2年2月

✿福岡県✿

福岡県立英彦山青年の家（職員宿舎）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県立英彦山青年の家		
所 管	教育庁教育振興部社会教育課		
整 理 番 号	70	竣工年度	昭和 46 年度
所 在 地	福岡県田川郡添田町大字英彦山 3 2 - 1 8		
敷 地 面 積 (m ²)	105,710.00	建築面積 (m ²)	3,459.59
主 構 造	R C	延床面積 (m ²)	7,647.23
主 要 建 築 物	管理棟・宿泊棟、多目的ホール、体育館、職員宿舎		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	職員宿舎				
棟 番 ・ 枝 番	1020	—	5	竣工年度	昭和 46 年度
建 築 面 積 (m ²)	112.58		延床面積 (m ²)	217.38	
構 造 ・ 階 数	補強コンクリートブロック造 2階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
2F	104.8	居住室			
1F	112.58	居住室			

英彦山青年の家は昭和 46 年度に開設され、職員宿舎は昭和 46 年度に竣工しました。

日本三大修験道の山の一つである英彦山にあり、大自然が見せる四季折々のすばらしい景観と、たくさんの動植物が生息する恵まれた自然環境の中で、野外活動・文化活動・スポーツ・レクリエーションなどを快適に体験できる宿泊型社会教育施設です。

職員宿舎は、当該施設を管理する職員が居住するための施設ですが、老朽化が著しく、現在宿舎としての利用はされていません。

(3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築48年であり経年による老朽化が著しく、また、現在宿舎としての利用は行っておらず、将来にわたって活用する見込みもないため、計画期間中に撤去を行います。

(2) 施設内での優先順位

施設としては補強コンクリートブロック造による建物です。

宿舎としての利用は行っておらず、一時的な職員休憩施設として利用している建物であり、屋上を始めとして内外装ともに老朽化が進んでいる状態です。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

各所の不具合等が発見された場合、部分的に事後保全による修繕を行っているだけで、多くの部分が改修されていない状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	英彦山青年の家		建物名称	職員宿舎					
所在地	田川郡添田町大字英彦山32-18		棟番・枝番	1020	-	5	築年数	48年	
建築年度	昭和46年度		建築面積	112.58 m ²		現存率	66.7	想定耐用年数	55年
構造・階数	補強コンクリート	2	延面積	217.33 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②		
構造	躯体	40	補強コンクリート	48	80.0		32.00		
	小計						32.00		
主要部仕上げ	屋根・防水	20	塗膜防水(NS/パール)	47	53.3		10.66		
	外壁	20	防水モルタル塗り、アクリルリシン吹付	47	60.0		12.00		
	小計						22.66		
電気設備	受変電設備	10		33	60.0		6.00		
	小計						6.00		
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		47	60.0		6.00		
	小計						6.00		
合計						66.66			

この結果、英彦山青年の家の職員宿舎の現存率は、「66.7」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	補強コンクリート	80.0	耐震診断による Is 値 ⁴	Is が 0.7～1.0 未満
屋根	塗膜防水 (NS パール)	53.3	防水層からの漏水 またはその痕跡	<ul style="list-style-type: none"> 部分的にひび割れや部材の劣化がある 少数の部材に少しの劣化がある
			防水層の劣化	<ul style="list-style-type: none"> 広範囲に少しずつの劣化がある 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある 部分修繕でも対応可能
			経年 (新設もしくは改修後)	経年 30 年以上
外壁	防水モルタル塗り、アクリルリシン吹付	60.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	<ul style="list-style-type: none"> 広範囲に少しずつの劣化がある 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある 部分修繕でも対応可能
			漏水の発生・痕跡の有無	<ul style="list-style-type: none"> 広範囲に少しずつの劣化がある 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある 部分修繕でも対応可能
内壁	ボード貼	60.0	劣化	仕上げ材等の劣化が多く認められるが、部分修繕で対応可能
天井	コンクリート素地・ヒルコン吹付	60.0		
床	畳・アスファルトタイル・モザイクタイル	60.0		
建具	アルミ、スチール	40.0	劣化	仕上げ材等の劣化が広範囲にあり、部分修繕が必要
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等の劣化が広範囲にあり、部分修繕が必要

⁴ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
			定期点検等の結果	—
非常用照明・ 火災報知設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
			定期点検等の結果	—
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
消火設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1971	48	旧	0.76	—	—	—	55年

※平成 23 年度耐震診断結果より

経年による施設の老朽化が著しく、また、現在宿舎としての利用は行っておらず、将来にわたって活用する見込みもないため、計画期間中に撤去を行います。よって、英彦山青年の家（職員宿舎）の目標耐用年数を 55 年（残年数 7 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築48年で経年による施設の老朽化が著しく、また、現在宿舎としての利用は行っておらず、将来にわたって活用する見込みもないため、計画期間中に施設の撤去を行います。

撤去費用は、約4千万円となっています。

(2) 対策の平準化について

施設の老朽化が著しいため、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、施設の撤去を行います。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

		(百万円)			計
区分	項目	実施時期			
		令和元～2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
構造	躯体	0	0	0	0
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	撤去	0	40	0	40
計		0	40	0	40

※上記は実際の子算や事業費とは異なります。